

食パンの外側を「耳」と呼ぶ理由

最近では耳までおいしい食パンが増えましたね。実は食パンの端を「耳」と呼ぶのは日本だけなんだそうです。

海外では「外側の皮」という意味が多く、アメリカは「クラスト」、フランスは「クルート」と呼びます。

日本では古来より、平面的な物の端っこを「耳」と呼び、ほかにも煎餅や布、紙の端っこも「耳」と呼びます。これは、物の平面を人の顔に見立てると、耳が端にあるからではないかと考えられています。

実は、焼きあがった食パンの断面（耳以外の白い生地）にある小さな穴を「目」と呼ぶそうです。

これは炭酸ガスの気泡が作った穴で、パン職人は穴の膨らむ方向や形を見れば食感が分かるのだとか。

